
口頭発表

[B] 分類・形態・組織

2024年3月29日(金) 13:30 ~ 18:00 B会場 (萩)

17:15 ~ 17:30

[B-26]ユーカリ類にゴールを形成するヒメコバチ（ハチ目）の台湾への侵入

○松尾 和典¹、Pan Liang-Yu²、Tung Gene-Sheng² (1. 九大院比文、2. TFRI)

*Eucalyptus*属や*Corymbia*属（フトモモ科）などのユーカリ類は、オーストラリアやニューギニアを原産とする植物である。台湾では1896年に導入され、街路樹などに利用されてきた。2000年代に入り、ユーカリ類の葉や葉柄に3種類のゴールが発見されるようになった。先行研究により、1種は*Leptocybe invasa*（ハチ目：ヒメコバチ科）によって形成されたゴールと同定されたが、残りの2種については未同定のままとっていた。本研究では、残りの2種のゴール形成者の同定を試みるとともに、台湾内における3種ゴール形成者の分布範囲を調査した。予備的な形態観察の結果、未同定に留まっていた2種は、*Ophelimus* sp.と*Epichrysocharis* sp.（いずれもヒメコバチ科）であった。さらに詳細に*Ophelimus* sp.の形態的特徴を観察したところ、近縁種とは頭部の表面彫刻や前翅の特徴が異なることから、未記載と考えられた。また、*Epichrysocharis* sp.は*E. burwelli*の形態的特徴と一致した。本講演では、分類学的検討の結果とともに、3種ゴール形成者の分布調査の結果を報告する。